

受賞者の声

特別賞(独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構理事長賞)

「障害者に対する職業能力開発」

「一般科における発達障害者等が参加するグループワークでの配慮」

上田典之(国立職業リハビリテーションセンター)

この度は栄誉ある賞を賜り、心よりお礼申し上げます。また、ご支援いただいたみなさま方に深く感謝申し上げます。

本論文は、対人関係やコミュニケーションの障害を持つ訓練生に対し、身体障害者も共に学ぶ一般科においてのグループワークの試みが、成果を上げていることを紹介しました。

本文の構成としては、発達障害者等の背景、アクティブ・ラーニング、合理的配慮といった確認と、訓練場面での困り感について触れさせていただき、障害特性へのアプローチ方法や訓練実施上の配慮について、指導員が実践するにあたっての考え方をまとめています。

これらをふまえて、グループワークの組み方、展開のやり方、指導のポイントについて実践例を説明しました。今回、グループワーク形式に訓練をデザインしたところ、「おもしろかった」「認められた」「つながりができた」という経験をしたことがアンケートから分かりました。「不安」や「場面理解の弱さ」等、当初参加に不安があったのですが、このことを考えると、高い「満足度」と「認められること」という自己肯定感は発達障害者等に成長を与えたと考えます。また、これをきっかけとして、声を掛け合う間柄となったり食事を共にしたり、一緒に帰るようになり、友人関係に発展した例ができました。

一般科で同じ目標を持つグループとして訓練を行ったことで、さまざまな喜びの笑みが出るようになりました。訓練でお互いがお互いに影響する「おもしろかった」「認められた」の好循環が生み出したのはグループの力です。障害特性として不安やコミュニケーションの苦手さを抱えている場合があります。このため、グループワーク形式の訓練には抵抗感や能力差が出やすいものです。しかし、障害への配慮を行ったグループワークによって批判をさげ、よい点を認め合う方法を用い、グループだからこそ、新しい人間関係が生まれたことは、訓練効果があったことから一つの訓練の方法として今後もテーマを変えての応用が利くのではないかと考えます。

この論文を読んでもくださった先生から「読んだよ」と声をかけてもらったことがありました。本当にうれしかったです。